

## フォード・マスタング・マツハ E ボルグワーナー製 最新統合ドライブモジュールを採用 高性能とエコを両立

- 様々な駆動方式に対応する統合ドライブモジュール(Integrated Drive Module, iDM)
- 同社が誇る最先端のギア構成を持つ変速機を iDM に採用
- ボルグワーナーのシステム・インテグレーションに関する幅広いノウハウを活用

ボルグワーナーは、フォード社製ピュア EV の新型 SUV、ムスタング・マツハ E 向けの高出力インテグレートッド・ドライブ・モジュール(iDM)を生産すると発表しました。iDM には、ボルグワーナー独自の熱管理システムや変速機の他に、他社製モーターおよびパワーエレクトロニクスが一体化されており、同社のシステム・インテグレーションにおける高い専門性を具現化しています。

iDM の拡張性やモジュール化に関する豊富なノウハウを活かすことにより、ボルグワーナーはフォード社の厳しい性能要求を満たす専用のドライブモジュールの開発に成功しました。他のボルグワーナー GearDrive®ユニットとは異なり、iDM は平行軸変速機を採用せず、代わりに電気モーターと同軸に動力を出力する同心軸変速機を特徴とし、よりコンパクトなパッケージを実現しています。この高性能変速機は、4,278 Nm の軸トルクと最大 13,800 rpm の入力速度に対応しており、効率の高い、滑らかな乗り心地を実現します。さらに、ボルグワーナーは一体化されたパーク・モジュールを開発し、iDM システム全体に適切な熱管理を施せる効率的な冷却および潤滑システムを開発するなど、すべてのコンポーネントを一つのコンパクトなアセンブリ内に納めることに成功しました。同社の iDM は、適応性の高いアーキテクチャにとどまらず、高度なインテグレーション、高いシステム効率及び最適化された NVH(ノイズ、振動、ハーシュネス)特性をも同時に実現しました。

iDM はマスタング・マツハ E の後輪および全輪同時に駆動力を供給することができます。全輪駆動の GT 仕様では、ボルグワーナーは前輪にも動力を供給するセカンダリ・ドライブ・ユニットを提供します。生産開始は本年中を予定しています。

ボルグワーナー・パワードライブ・システムズ社の社長兼事業本部長のステファン・デメール博士(Dr. Stefan Demmerle)は、「当社のシステム・インテグレーションにおける知見と変速機に関するノウハウを融合した結果、組み立てが容易で静粛性の高い iDM を開発することに成功しました。特に静粛性は EV にとって、ますます重要な要件になっています」、「マスタング・マツハ E 同様、当社の iDM は環境に優しく、スリリングであることを望むドライバーの熱い期待に十分に答えることができます。今回、再びフォードと提携し、高品質かつクリーンで高効率の電動化ソリューションをハイパフォーマンス EV 市場に提供することになり、嬉しく思います」と述べています。



**IDMには、ボルグワーナーの変速機と一体化された他社製のモーターおよびパワーエレクトロニクスが組み込まれており、システム・インテグレーションにおける高い専門性を具現化しています**

[Download Image](#) | [詳細はこちら](#) | [動画](#)

### ボルグワーナーについて

ボルグワーナー(NYSE: BWA)は、内燃機関、ハイブリッド、電気自動車向けのクリーンで高効率な技術ソリューションを提供するグローバルなリーディングカンパニーです。世界19カ国67カ所に生産・開発拠点をもち、全世界でおよそ29,000人の従業員を擁しています。詳細については、[borgwarner.com](http://borgwarner.com)をご覧ください。

本プレスリリース(以下、本「リリース」)に記載された内容には、経営陣の現在の見通し、期待事項、試算、推定に基づく、1995年米国私募証券訴訟改革法で想定された将来予測に関する記述が含まれている場合があります。「見込む」、「考える」、「継続する」、「可能性がある」、「目的とした」、「影響」、「試算する」、「評価する」、「期待する」、「予測する」、「目標」、「指針」、「取り組み」、「意図する」、「場合がある」、「見通し」、「計画する」、「潜在的」、「予見する」、「推定する」、「追求する」、「目指す」、「すべきである」、「目標とする」、「の場合」、「でしよう」、「かもしれない」などの文言、その変化形および同様の表現は、かかる将来予測に関する記述であることを意図しています。さらに、歴史的事実に関する記述を除く、本リリースに含まれる、または言及する形で盛り込まれた当社の財務状況、事業戦略、当該戦略を実施するための手段などに関して、将来起きる、または起きる場合があると当社が期待する、または見込むあらゆる記述は、将来予測に関する記述です。その例として、業務の変更、競争上の強み、目標、当社事業および業務の拡大と成長、計画、将来の成功に関する言及などがあります。当社の直近のForm 10-K年次報告書(以下、「Form 10-K」)の第7項「重要な会計方針(Critical Accounting Policies)」で記述されたものをはじめとする会計上の試算は、本質的に将来予測です。すべての将来予測に関する記述は、歴史的な動向、現在の状況、期待される将来の進展、当社がそれらの状況下で適切と考えるその他の要因に関する当社の経験と知見を踏まえた当社による仮定および分析に基づいています。将来予測に関する記述は業績を保証するものではなく、当社の実際の業績は、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄と著しく異なる場合があります。

これらの将来予測に関する記述は、本リリースの発行日における事柄を述べたものであり、過度に依存すべきではありません。将来予測に関する記述にはリスクおよび不確実性が伴いますが、それらの多くは予見困難かつ一般的に不可抗力によるものであり、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄とは著しく異なる実際の結果をもたらす可能性があります。そうしたリスクおよび不確実性の例として、自動車およびトラック製造(いずれも景気に大きく左右される)への当社の依存性、大手OEM顧客への当社の依存性、商品の入手可能性および価格、供給停止、金利の変動および外貨の為替レートの変動、与信枠、主要経営陣への当社の依存性、情報システムへの当社の依存性、世界経済環境の不確実性、さまざまな損害賠償に関する訴訟など既存または将来の法的手続きの結果、当社が事業を展開している国における関税など将来の法規制の変更、直近のForm 10-Kの第1A項「リスク要因(Risk Factors)」など証券取引委員会に提出する報告書に記載したその他のリスクが挙げられます。当社は、期待事項の変更または記述の根拠となる出来事、条件、状況、仮定の変更を反映するために、本発表文に含まれる将来予測に関する記述のいずれかを更新する、または更新もしくは改訂を公表する義務を負いません。

<報道に関するお問い合わせ>

ボルグワーナー広報事務局 中井、佐藤  
TEL: 03-3571-5326 FAX: 03-3574-0316  
EMAIL: [borgwarner-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:borgwarner-pr@kyodo-pr.co.jp)